



【令和3年度 第1回即応態勢点検】

令和3年4月19日

令和3年4月19日（月）自衛隊札幌病院（病院長 鈴木陸将）は、防衛警備上の事態、災害派遣及び航空機事故における事案発生時の初動対応の練度向上並びに即応態勢の実効性向上を目的とし、「令和3年度第1回即応態勢点検」を実施した。

部隊当直司令は「0500頃、道東地区において震度6強の地震が発生した。自衛隊札幌病院は、第3種非常勤務態勢に移行し、救護班は直ちに派遣準備を実施せよ。」の状況付与を受け、速やかに電話及びメールによる非常呼集を開始、当初残留の営内隊員が病院地下資材搬入口に集合し、部隊当直司令の指揮の下、携行資材の搬出・集積を行った。その後救護班員が到着し、人員・装備及び携行資材の点検から車両積載までを完了させ、派遣準備完了を統裁官（病院長）へ報告した。

統裁官（病院長）は「本点検はこれで終了するが、実派遣においては、これからがスタートであり、求められるものを考えて行動できるよう心構えをしっかりと保持してもらいたい。」と訓示を述べ状況を終了した。本点検においては、北部方面衛生隊から人員及び救急車の支援を受け、より実動に近い状況で実施することができ、初期目的を達成した。



状況付与



電話呼集



資材搬出・集積



資材点検をする救護班員



北部方面衛生隊(Amb)到着



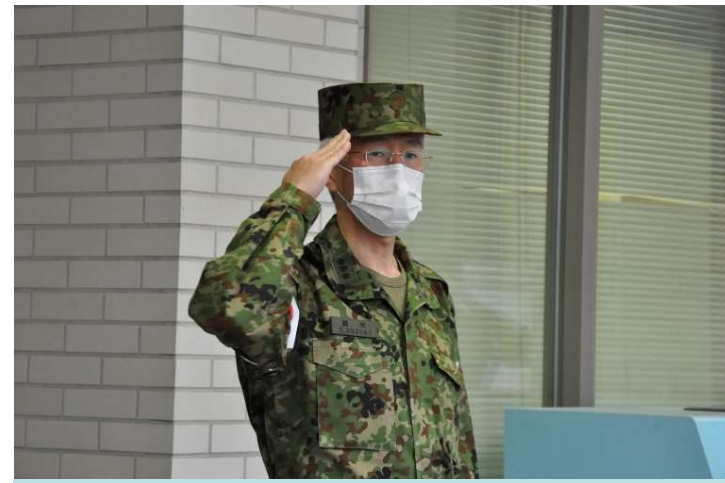
準備状況を確認する救護員



資材積載



派遣準備完了報告



報告を受ける統裁官